



うぶすな

諏訪社

No. 8



式内 坂本神社諏訪社 社報

発行：令和 7 年 9 月

令和の例大祭

宮司 荻野正道



来る十月十二日、恒例の諏訪神社例大祭が斎行されます。昨年の例大祭からようやくコロナ前とほぼ同様に斎行することができるようになりました。

「例大祭」とはあまり聞きなれない言葉ですが、年に一度その神社の鎮座の日や御祭神に特に縁(ゆかり)の深い日などに斎行されるお祭りのことを言います。一般的に春祭り、秋祭りといったかたちで、それぞれの神社にとってもっとも重要なお祭りです。そのため例祭日はみだりに変更できないとも言われています。諏訪神社の例大祭は昔は曜日にかかわらず十月二日に斎行され、この日は学校も休みになっていました。その後、十月二日に一番近い日曜日に行われるようになり、現在は十月の第二日曜日に斎行されることとなっています。

江戸時代の例大祭は手踊りや村芝居をしたり、花火を上げたり、今より盛んに行われていました。花馬も、農耕馬がいた昔は本物の馬が繰り出されて奉納されましたが、時代とともに身近に馬がいなくなると、今のような神輿に代わってきました。これらは「神振り」といって神様を喜ばせるためになくてはならないものです。祭りに降臨された神様を、楽しくにぎやかにお迎えすることは何よりの祈禱になります。「神振り」は単なる余興ではなく、神様と人の距離を縮め、人の祈りを神様に届ける大事な意味を持っています。

時代は令和となり、コロナ禍を経て世の中は大きく変わりつつあります。諏訪神社の氏子区域である茄子川地区は、リニア関連の工事や宅地開発が進み日に日に町の景色が変わっています。他地域から転入されてきた方々の中には、諏訪神社の存在を知らない方も多くいらっしゃいます。また、子どもたちの中には諏訪神社の例大祭に参加したことがない子もいると聞きます。神社のお祭りに子どもたちの元気な声が響き渡ることは、地域の繁栄の象徴でもあります。子どもたちをはじめ多くの氏子の皆様に参加していただけるよう地域の実情も鑑みながら、これからの「例大祭」のあり方について考えていきたいと思っています。

昨年より氏子区域の繁栄と氏子の皆様の無病息災を願って、神事の開始とともに花火を打ち上げています。この花火が新しい時代の「祭り」の始まりの合図となるよう神職役員一同、一丸となって努めてまいります。



幼児初宮詣り

初宮詣りとは、お子様の無事の誕生を感謝し、健やかな成長と末長い神様の御加護を祈るとともに、新しい氏子の一人として認めてもらう儀式でもあります。

当神社では、例年秋の例大祭の日にこの一年に誕生されたお子様を中心に御祈禱を行っています。ご希望の方は、各町内9月の回覧板に申込書を添付しますので、必要事項をご記入の上、地区担当総代までお申込み下さい。準備の都合で9月22日(月)を締め切りとさせていただきますので、ようお願いいたします。



昨年の例大祭(10月13日)で斎行された初宮詣

※様々な事情で他の日をご希望の場合でも
ご相談に応じています。

伝統を受け継ぐ諏訪獅子

諏訪神社例大祭における花形といえば、何と言っても花馬神輿と諏訪獅子奉納ではないでしょうか。諏訪獅子の歴史は古く、江戸中期に三河と恵那郡を結ぶ中馬街道を伝ってこの地にやってきたとされています。一説には「権九郎獅子」と呼ばれる獅子頭と黄金塗の「神楽堂」を馬で三日をかけて運んできたとも。

この権九郎獅子は雌獅子で優しい顔をしています。諸悪を祓うとされる女獅子は、剣・幣・鈴の舞をもって例大祭に奉納される伝統文化です。明治30年頃からは「諏訪の前」地区(西諏訪・東諏訪)で受け継がれ、今も地区の小学生によって舞われています。昭和53年に保存会が結成され、例大祭が近づくに保存会の指導の下、子どもたちの練習が始まります。舞手は男の子、囃子手の笛は女の子で小学一年生から習い始めます。

諏訪獅子保存会はその功績を認められ、平成28年に岐阜県神社庁から表彰されました。少子化といわれる現在ではありますが、貴重な伝統文化の継承に努めています。



令和七年度 式内坂本神社諏訪社大祭式例祭 10月12日(日)

幼児初宮詣り	9:30(受付 神楽殿 9:00～)
神輿御練	11:40 財団駐車場出発 12:30 本殿横到着
奉納太鼓	11:30 境内広場 12:40 馬場広場 坂本さくら保育園・中津川太鼓
大祭式例祭神事 奉納獅子舞(神事内)	12:40～14:20 本殿・拝殿
獅子舞披露	13:40 境内広場
奉納餅投げ	14:30 境内広場
神輿疾駆	餅投げ終了後 馬場にて

※事情により時間が押す場合があります。
※露天商の他にキッチンカーが営業する予定です。
※奉納餅投げは小学生以下の部を分けて先に行きます。

七五三詣で

「七五三詣で」は古くから伝わってきた子供の成長をを祝う大切な人生儀礼です。子どもの親や家族たちは三・五・七歳の節目の年まで「元気に育ったことへの感謝」と「今後も無事成長できることへの祈り」のため、近隣の神社(氏神様)にお参りに行きました。これが七五三の始まりと言われています。

お子様のこれからの幸多き人生を願い、末永い氏神様のご加護を祈念する歴史ある神事です。

昨年は35名のお子様がお参りされ、晴着姿のかわいい子どもたちで境内が賑わいました。今年は11月9日(日)に斎行いたします。お申込みは10月の各町内会回覧板に添付します申込書に必要事項をご記入の上、各組組長へご提出ください。



令和七年度 祭典行事予定表 式内坂本神社諏訪社

6月29日(日)	夏越祭(中祭)	9時30分
10月12日(日)	初宮詣 大祭式例祭(大祭)	9時30分 12時40分
11月9日(日)	七五三詣(小祭)	9時30分
11月23日(日)	新嘗祭(大祭) 大麻頒布式	9時30分 11時00分
12月31日(水)	焼納祭	22時00分
1月1日(木)	元旦祭(中祭) ※初詣	10時00分 1月1日 0時~16時 1月2日 9時~16時 1月3日 9時~15時
1月11日(日)	天神祭(小祭) 合格祈願祭	9時30分 10時30分
2月15日(日)	祈年祭(大祭)	9時30分

今年も「夏越大祓」に茅の輪を設置し、期間中多くの参拝者をお迎えしました。花手水・茅の輪御守りもご好評をいただき、ありがとうございました。



次の新年は、ぜひ新春伊勢神宮参拝旅行へ

日本人の総氏神である伊勢神宮はおよそ二〇〇〇年前、第11代垂仁天皇の皇女倭姫命やまひめのみことが伊勢の地に入りお宮を設け、天照大神をお祀りしたことから始まったとされます。古くは天皇以外の奉幣は禁止されていましたが、神嘗祭などに差遣された勅使のお供が都に戻り、その口伝えによつて次第に神宮のことが民衆に広がっていききました。時代はぐつと下がって鎌倉時代中期には相当数の参拝者があつたとの記録もあり、さらに江戸時代になって世情が安定すると爆発的な「お伊勢参り」のブームが起ります。江戸後期には「おかげ詣り」と呼ばれるようになり、安政年間には五〇〇万人、当時の人口から換算して6人に1人が伊勢神宮へ押し寄せたこととなります。現在でも年間八〇〇万人が訪れる聖地であり、私たちの信仰を集め続けています。当諏訪神社でも毎年新年に、

編集後記

前号から13ヶ月も空いての発行となり、毎度楽しみにしておられる方には誠に申し訳ありません。に2回の発行を目標としているのですが…



今年度も半分が過ぎようとしています。4月より新しい総代を迎え活動しています。日々の清掃活動をはじめ、広報活動・奉仕活動を通してより多くの方々に神社の魅力をお伝えできたらと思っています。

⑦



令和7年度 神職・氏子総代会のメンバー

宮司	荻野正道	六区	大前隆也
禰宜	西尾武士	六区	藤村盛秀
総代会長	山崎佑助	七区	荻野祥彦
一区	西尾幸秀	七区	磯部正
二区	上平憲一	八区	河尻信利
三区	亀井清	新町区	小林博
四の一区	勝広幸	エルザ区	鈴木高雄
四の二区	二村正之	二美区	柴田慎一
五区	新田誠	二美区	林修司
五区	西岡安夫	曙区	吉村仁郎

(敬称略)



▲立派な仁王門



◀巨大卒塔婆部



外宮前広場にて

観光バスを仕立て、氏子の皆様を「お伊勢参り」に案内する新春伊勢神宮参拝旅行を企画しています。一泊二日の旅行は一日を伊勢神宮外宮参拝・内宮御垣内参拝・御神樂奉納・おかげ横丁散策・猿田彦神社参拝、もう一日はゆかりの場所や他社を参拝するのが定番で、今年は「お伊勢参らば朝熊をあさまかけよ、朝熊かけねば片詣り」と伊勢音頭にも歌われた朝熊岳金剛證寺を訪ね、年来の片詣りを解消してきました。さて次の新年、令和八年の参拝旅行には皆様をどちらへご案内するかただ今思案中です。ぜひご参加いただきますようしくお願いいたします。

※坂本諏訪社氏子の皆様へ 諸祭儀のご要望をお受け致します

七五三、初宮詣、神前結婚式、出張祭(地鎮祭・上棟祭・家祈祷・神葬祭等々)御祈祷(新車清祓・受験合格祈願・安産祈願・厄除け等々)諸祭儀のご要望等御用の方はお気軽にお電話ください。

【連絡先】宮司：荻野正道(携帯) 090-9949-7988

オフィシャルサイトを
ご覧ください。
日々(?)...時々更新
しています。



<https://www.sakamotojinja-suwa.com/>



フェイスブックに神社の最新
情報をアップしています